

シームシー
技術開発

事業化企業含む3者で特許

カーボンマイク クロコイル 技術移転を本格化

【岐阜】カーボンマイク
ロコイル(CMC)の技術
移転会社であるシームシー
技術開発(岐阜県各務原
市須衛町4の179の1、
河辺憲次社長、0583・
79・0686)は技術移
転の新たな枠組みを決め、
移転を本格化する。同社と
CMCの開発者である元島
栖二岐阜大学工学部教授、
それに事業化に取り組み共
同開発企業の3者共同で特
許を出願、保有する手法で、

3月中にも共同開発企業を
募集する。関係者が特許を
共有し、事前に権利配分比
率を決めて技術移転するの
は国内では珍しい。

同社は99年に元島教授を
はじめ、全国の大学の教員
などの出資で設立された。
CMCは微量の硫黄化合物
を含むアセチレンガスを熱
分解して得られるコイル状
の炭素繊維。電磁波吸収材、
水素吸蔵材、エネルギー変
換素子などへの応用が期待

されている。ただ、これま
で技術移転の手法が明確に
なっていないかった。

今回、同社と元島教授、

共同開発会社の3者による
特許の共有を決定。その権
利配分は同社40%、元島教
授20%、事業会社が40%と

いう比率とした。特許出願、
保有経費は同社と共同開発
会社が負担。権利が実施で
きるのは実質的には共同開
発企業のみとしている。同
社はこれまでに元島教授と
企業が共同出願した約20件
の特許も、すでに大半を3
者の共有特許へ名義変更済
みという。

共同開発企業にとっては
特許を共有することで元島
研究室との協力関係、最新

情報の入手、
発会社が持つ
利用などで優
れた特許の管理
できるメリッ

現在、技術
LO)により
への技術移転
が、事業化の
いは、あい
ターゲットに
い。こうした
り組みが注目